

世界農業遺産やまなし

山梨県峡東地域は、甲府盆地の東側に広がり、山梨市、甲州市、笛吹市にまたがります。この地域は 2022 年 7 月、国連食糧農業機関（FAO）によって認定された「世界重要農業遺産システム（GIAHS）」の受賞地域となりました。この認証は、地域の農家が独自の伝統的な技術と資源を駆使し、システムの維持とバランスを支える役割を果たしている場所に与えられます。農業システムのエコロジカルで持続可能な性質と地域文化との結びつきは、このプログラムの中核をなしています。



山梨県京東地方にある桃の花・満開状況



大善寺・ぶどうの房を持った大仏

山梨県の峡東地域には、千年以上にわたる歴史を持つ独自のブドウ生産システムが存在します。ワイナリー文化は、中国からの影響が最も強かった時代に、仏教と共にこの地域に伝わりました。特に大善寺は「ぶどうの寺」として知られ、国宝に指定されています。この寺の本堂は 1286 年に完成し、山梨県で最も古い建物のひとつです。ここではぶどうの房を持った仏像を鑑賞することができます。当時、ブドウは薬効があると信じられ、神聖な食物とされていました。



大善寺 本堂



山梨県峡東地方にある葡萄畑

世界の農業界の注目を引いたのは、この地域の地理的特性と生態系と調和した地域資源の高度な利用が見事に組み合わさっていることでした。ブドウと桃の果樹園に広がる灌漑システムは、コンクリート構造で作られ、山から水を供給しています。近隣の険しい山々が、重力で山の上から農園へと水を流す役割を果たしています。



峡東地方にてぶどうの収穫

この地域の果物生産は、主に家族経営の農家によって行われ、その生産物は大規模な流通センターに送られます。農薬を使用せず、果樹園ごとに手作業により作られる、美しい桃の花や丘陵地帯に広がるブドウ畑は通行人や観光客にとって魅力的に映ります。

山梨はブドウ、モモ、スモモの生産量が日本一です。その品質と生産量から、収穫期には全国から観光客が訪れます。有名な「フルーツ狩り」のように、果物を木から直接収穫できる場所も多くあります。

古くからの果物栽培の伝統を受け継ぐ山梨の農家の献身的な努力により、山梨は1300年以上にわたり、日本の「果物王

国」として栄えてきました。今、世界の農業遺産の重要な一部として、山梨は豊かな自然と伝統的な果樹栽培で世界を魅了し続けています。富士山のふもと、山梨で、味わいと絶景の世界があなたを待っています。